

CNA レポート・ジャパン

Conferencing News & Analysis, Report on Japan market - CNAReportJapan

創刊：1999年12月

発行日：毎月15日・月末

PDFによる発行

テレビ会議・ウェブ会議・電話会議システム市場専門トレンドワッチ

Vol. 23 No.4 2021年2月28日

製品・サービス動向-国内

■NTT ビズリンク：クラウド型映像コミュニケーションサービス「SMART」で秘匿性の高い利用シーンを支えるセキュリティ機能の強化を実施

(2月24日)

エヌ・ティ・ティ・ビズリンク株式会社 (<https://www.nttbiz.com/>) (東京都文京区、以下、NTT ビズリンク) は、同社が提供するクラウド型映像コミュニケーションサービス「SMART Communication & Collaboration Cloud(SMART)」の各種セキュリティ機能の強化を実施した。

SMART は、従来のテレビ会議システム、PC、タブレット、スマートフォン、Web ブラウザでの利用だけでなく、「Microsoft Teams」「Cisco Webex Teams」などの他社サービスとの相互接続が可能なクラウド型映像コミュニケーションサービス。

以下の3点においてセキュリティ強化を行った。(1)「SMART Federation」による認証機能強化。通常の会議、役員会議など秘匿性の高い会議、研修やイベントなどのウェビナーなど利用シーンに合った認証レベルを会議毎に設定することが可能。

通常の会議では、会社で会議室に入るように、会議室の番号を知っている人が会議室認証により入室可能となっている。また、秘匿性の高い会議では、事前に登録したユーザのみ参加者認証で入室が可能にする認証方法を提供している。さらに、ウェビナーでは、内容に応じて認証レベルを設定可能で、参加者を厳重に絞り込んだり、逆に広く接続したりするなどのコントロールが可能となっている。

SMART Federation の活用により、認証機能に加えて、各会議において参加者ごとのルール(権限)を設定することができるようになっているため、主催者が参加者の制御を行い、円滑に会議を運営することができる。

(2)閉域ネットワーク内での映像コミュニケーション。企業の持つ閉域ネットワーク内でも、PCで手軽に会議に参加できる利点はそのままに、インターネットを経由せずに映像コミュニケーションが利用できる。NTT ビズリンクが提供しているネットワークはもちろん、多くの企業が社内ネットワークとして導入している各種 IP-VPN をはじめとするさまざまなネットワークに対応している。秘匿性の高い情報を扱う一部地方自治体での会議などでも導入されているという。

(3)ソフトウェア VPN を使いインターネット上でセキュアに利用。指定のソフトウェアをインストールし、SMART 基盤との間で仮想的なトンネルを張る強固なセキュリティ環境を提供する。

「ビデオ会議接続サービス」市場で7年連続1位(シード・プランニング調べ)を獲得するサービス。企業の役員会議などの利用シーンにとどまらず、行政・自治体・公共機関など PC へのアプリケーションインストールや各種パブリッククラウドサービスの利用が制限されるユーザからも、セキュリティ重視のサービスに高い評価を得ているという。

■アドバンスト・メディア：AI 音声認識を活用した文字越し支援アプリケーション「AmiVoice ScribeAssist」に Zoom ミーティング・ウェビナー字幕機能を搭載

(2月3日)

株式会社アドバンスト・メディア (<https://www.advanced-media.co.jp/>) (東京都豊島区) は、AI 音声認識を活用した文字越し支援アプリケーション「AmiVoice ScribeAssist (アミボイス スクライブアシスト)」に、「Zoom」ミーティング・ウェビナーの字幕機能を搭載した。



字幕機能 (アドバンスト・メディア)

AmiVoice ScribeAssist は、オンライン/オフラインといった会議形態、WEB 会議システムの種類を問わず使用できる、文字越し支援アプリケーション。リアルタイム認識・バッチ認識に対応しており、会議音声の録音、音声認識、テキストの編集、文字越し内容の出力までをワンストップで行える。スタンドアロン型のため、情報漏えいのリスクがなく、機密情報などを扱う会議でも安心して利用できる。2020 年 6 月の発売から、現在 50 社以上の企業・自治体に正式導入されているという。

今回搭載した字幕機能によって、Zoom ミーティング・ウェビナーでの会話をリアルタイムで文字化し、画面内に字幕として表示できるようになった。参加者は、各自 Zoom 内で字幕表示の有無の選択や、文字サイズを大・中・小で選ぶことができる。話者情報も付与できるため、発言の冒頭に発言者の名前を表示する

ことも可能となっている。

既存の AmiVoice ScribeAssist にも字幕ポップアップ機能が付属していたが、ソフトのインストールを行っている PC 上のみで有効だったため、複数人で利用するには画面共有などを行う必要があった。今回搭載された機能では、ソフトをインストールしていない人の Zoom 画面にも字幕表示がされるため、よりスムーズに利用できるようになるという。

■HERP：社員主導型スクラム採用プラットフォーム「HERP Hire」が、2月1日、ビデオ会議ツール「Zoom」との機能連携を開始

(PRTIMES：2月1日)

株式会社 HERP (<https://herp.co.jp/>) (東京都品川区) は、同社が開発・運営する、社員主導型スクラム採用プラットフォーム「HERP Hire」が、2月1日、ビデオ会議ツール「Zoom」との機能連携を開始したと発表。

HERP Hire は、社員主導型のスクラム採用を推進したい経営者や人事責任者向けの採用プラットフォーム。IT 系企業が利用する 20 以上の求人媒体から応募情報を自動連携するほか、「Slack」や「Chatwork」と連携した直感的な操作で、スムーズかつ短時間に書類選考や面接スケジュールを管理することができ、社員ひとり一人が積極的に採用に参画できる状態の実現をサポートする。

Zoom ミーティングと連携することで、Zoom ミーティングの URL が自動的に発行される仕組みを提供する。面接官のカレンダーに自動的に Zoom ミーティングの URL が記載され、面接官はカレンダーからスムーズに面接用の Zoom ミーティング URL にアクセスすることができる。HERP Hire の管理画面から Zoom アカウント/Zoom ユーザの認証を行い、連携が完了したメンバーには Zoom のロゴが表示される形になっている。

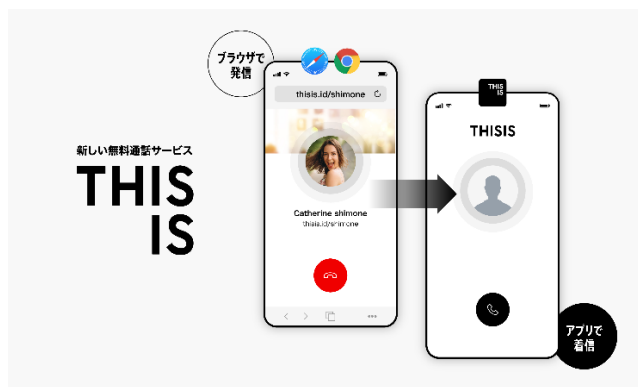
ビジネス動向-国内

■grabss：総額 2.3 億円の資金調達を完了

(PRTIMES:2月16日)

株式会社 grabss (<https://www.grabss.co.jp/>) (東京都世田谷区) は、岩崎通信機株式会社 (<https://www.iwatsu.co.jp/>) (東京都杉並区) を引受先とした第三者割当増資および既存株主数名への株主割当増資などにより 2.3 億円の資金調達を完了したと発表。Grabss は、少人数向け無料 Web 会議サービス「BIZMEE」を提供している。

今回の調達によって経営基盤をより強化し、岩崎通信機との共同開発事業、grabss の得意分野である WebRTC 技術を活用した新音声通話サービス「THISIS(ディスイズ)」(<https://thisis.id/>) の立ち上げ、およびオンラインチケットサービス「TIGET (チゲット)」のマーケティング施策のほか、人材採用の強化を含む開発・販売体制の充実など事業強化を推進していく。



THISIS (grabss)

岩崎通信機は、アプリ不要の国産 Web 会議システム「Waaarp」(<https://www.iwatsu.co.jp/waaarp/>) やビジネスホンのスマホ内線ソリューションなど新しいコミュニケーション環境の提供を推進している。岩崎通信機と grabss は、2019 年 12 月より Waaarp をはじめとする WebRTC 関連製品の共同開発を行っており、今

後はさらに両社の強みを融合させ、アフターコロナを見据えたさまざまなサービス展開により日本企業の DX 推進に貢献していくとしている。

※関連記事：定期レポート 2020 年 6 月 30 日号

■ワークスマイナルジャパン：「LINE WORKS」導入企業 約 1 年で 2 倍、20 万社突破

(PRTIMES:2月18日)

ワークスマイナルジャパン株式会社 (東京都渋谷区) は、「LINE WORKS」のサービス開始から 4 年で導入企業が 20 万社を突破したことを発表した。

LINE WORKS (2017 年サービス開始) は、チャットやスタンプ、掲示板、カレンダー、アドレス帳、アンケートなど現場で活用できる充実したグループウェア機能を備えた「仕事用 LINE」。なじみのあるコミュニケーションアプリ「LINE」のような使いやすさのため、ユーザの教育も必要なく、導入したその日から誰でもすぐに使える。2020 年 9 月に富士キメラ総研から発表された「ソフトウェアビジネス新市場 2020 年版」では、3 年連続で有料ビジネスチャット国内シェア No.1 を獲得している。

導入企業が 20 万社突破した中、業種割合 TOP 3 は、1 位「卸売・小売業」2 位「製造業」3 位「建設業」。また「LINE WORKS」とつながる LINE ユーザは昨年同時期比で約 2.5 倍増の 600 万人超。非対面・非接触への対応として、営業担当と顧客、採用担当と求職者、医師と患者、社員とアルバイト、協力会社・顧客などとの社外コミュニケーション活用が急伸しているという。

LINEWORKS の連携可能ソリューションが 100 製品を突破した。外部のさまざまなサービスやソリューションと連携することで、利用者の業務効率化を支援している。

導入・利用動向-国内

■バイキューブ：バイキューブと電子情報通信学会、オンラインイベントプラットフォーム「EventIn」を活用した「学会向けソリューション」でシンポジウム開催

(2月26日)

株式会社バイキューブ (<https://jp.vcube.com/>) (東京都港区) と一般社団法人電子情報通信学会 (https://www.ieice.org/jpn_r/index.html) は、オンラインイベントプラットフォーム「EventIn」を活用した「学会向けソリューション」でシンポジウムを開催したと発表。



EventIn を活用した、電子情報通信学会のシンポジウムの様子 (バイキューブ)

EventIn は、従来のイベントのように、複数の個別セミナーの同時開催や参加者同士のビデオ通話やチャットによる自由な双方向コミュニケーションが取れるライブ配信型のオンラインイベントプラットフォーム。

電子情報通信学会は、2021年1月28日に開催された電子情報通信学会支部 CoE シンポジウム「光をコアとするセンターオブエクセレンス(CoE)を目指して一四国から世界へ」において、バイキューブの EventIn を活用した。従来のオンラインカンファレンスツールでは困難であった、学会ならではの研究者同士のきめ細かい研究交流を実現し、7割以上の参加者から、従来に比べ活発なコミュニケーションが可能になった、今後も是非利用したいなどの評価を得ることができた

という。

電子情報通信学会では、アフターコロナ、with コロナの DX のため、参加が難しい人のためにシンポジウムやセミナー、チュートリアルと呼ばれる教育など、多くのコンテンツを録画しウェビナーとして公開し、電子情報通信分野の学問や産業の発展に貢献していく考え。また EventIn に関しても必要な技術開発に貢献していく予定という。

バイキューブでは、今後も顧客のコミュニケーション DX 実現に向けてさまざまな映像コミュニケーションサービスを提供していくとしている。

PR

■ダイترون株式会社



https://www.daitron.co.jp/products/aver_promotion.html

■アバー・インフォメーション株式会社



<https://jp.aver.com/solution/learning-and-consulting/remote-consulting>

セミナー・展示会情報

<国内>

■ヤマハ ウェビナー「音声技術をフル活用し、貴社の Zoom ミーティングを徹底改善！事例や実践から学ぶ、効率的な会議運営のコツ<発展編>」開催のお知らせ

日時：3月19日（金）14:00～15:30

会場：オンライン

主催：ヤマハ株式会社

詳細・申込：https://sound-solution.yamaha.com/jp/webinar_202103

■ブイキューブセミナー（3月）

「実践！Zoom ウェビナー～ウェビナー開催のコツや運用の5つのポイントを伝授～」 「徹底解説！失敗しないウェビナーツールの選び方」など多数

会場：オンラインセミナー

詳細・申込：<https://jp.vcube.com/event/all>

■Webex Meetings 関連ウェビナー（2021年3月）

日時：日時ご確認ください。

会場：オンライン/オンディマンド

主催：シスコシステムズ合同会社

詳細・申込：

https://www.cisco.com/c/m/ja_jp/training-events/events-webinars/collaboration-webinars.html

国内その他：<http://cnar.jp/cna/event-j.html>

海外その他：<http://cnar.jp/cna/event-r.html>

※イベント情報は随時情報が入り次第掲載しております。

CNAR.jp サイトの情報もご参照ください。

業界の動き

遠隔会議・UC 業界は日々さまざまな動きがあります。この定期レポートの発行は月2回（プレスリリースと取材に基づく記事のみ）ですが、CNA レポート・ジャパンでは、それ以外の業界の動きに関連した国内外の情報を日々皆さんと共有しています。皆様の情報収集

のひとつとしてご活用いただければ有難いです。

■フェイスブック（遠隔会議&UCトレンドワッチ）

<https://www.facebook.com/unifiedcom>

■Twitter（CNA レポート・ジャパン）

<https://twitter.com/cnarjapan>

■メーリングリスト（dte-forum）

<http://cnar.jp/cna/dteforum-ml.html>

定期レポートバックナンバー

定期レポートのバックナンバー（1999年～最新号）は下記で閲覧できます。

<http://www.cnar.jp/cna/cnareportarchive.htm>

CNAレポート・ジャパン 2021年2月28日号おわり

ホームページ：<http://cnar.jp> お問い合わせ：cnar@cnar.jp